

明石市立二見北小学校では、10月8日(木)、10月19日(月)の2日間、講師を招いた講演会が実施されました。8日(木)はパラリンピック選手 笠本 明里さんと、元国際交流ディレクターでありパラ水泳強化コーチの酒井 正人さんを、19日(月)には二見出身で元パラリンピック選手の前中 智佐美さんを講師としてお招きし、講演をしていただきました。今回はその様子をお届けします♪

10月8日(木) 『パラリンピアンと国際理解を広げよう～あきらめない先にあるもの…それは～』

元国際ディレクター・パラ水泳強化コーチの酒井さんからは、パラスポーツが障がいの程度によってクラス分けがされていることなど、みんながスポーツを楽しみ、公平に競技を全力で頑張れるように工夫されていることを教えていただきました。

また、3択問題のパラリンピッククイズでは、タッピング棒の使い方や実際に大会で起きたハプニングなどの問題が出され、児童の皆様がとても盛り上がった時間となりました。実際の 2016 リオパラリンピック水泳の映像視聴では、**“のこされたものを生かして最大の力を出す”** 一人ひとりの輝く姿に、しばらく感動の余韻が感じられました。

笠本選手からは、ご自身の先天性色素欠乏症や視覚障害について、これまで苦労した内容をお話いただき、水泳を通して出会った選手やボランティアの温かさ、挫折しそうなことがあっても諦めずに努力し続けることの素晴らしさを伝えていただきました。

講演の最後には、「困っている人がいたら声をかけてあげられる、“ありがとう”と声に出して伝えられるような人になって欲しい」「あきらめないでいるとその先にはいいことが待っている」とご自身の体験を通してメッセージを送られました。



10月19日(月) 『～自分がいきいきと輝けるものが みんなある～』

二見出身でパラリンピック金メダリストの前中さんの講演では、脊椎カリエスを発症してからの過ごし方、車いすスポーツとの出会いやパラリンピックでの経験、現在の車いすでの日常生活についてお話いただきました。

そして、講演会の後に4年生が車いす体験を行いました。前中さんもされていた車いすバスケットや、狭い通路、段差などを体験し、使用者の気持ちの理解を深める時間となりました。

また、自分の順番を待っている間は、自身が体験して感じたことや見て感じたことなどをしっかり記録していました。

講演会と車いす体験の終了後、児童の皆様から**「今まではオリンピックばかりを見ていたけど、前中さんの話を聞いてこれからはパラリンピックを見ようと思いが沸いた。」****「色々な困難を乗り越えているパラリンピアンを応援したいと思いました。」**と感想が多く出ていたのがとても印象的でした。



二見北小学校には、前中選手のパラリンピック出場の記念碑が建てられています！

